

# 1968年

佐藤内閣の外交政策や成田空港建設に反対して学生運動が盛り上がり、新宿駅の占拠、東大や日大のバリケード封鎖に発展した。中国の「文化大革命」や学生運動の影響



「中華人民共和国写真展」を各地で開催 日本で初公開の大慶油田の最新写真をはじめ大型写真百七十七点が展示された。会場は連日熱心な観覧者でにぎわい、好評を博した

一九六八年三月十七日 一宮市民体育館

は、MLや中核などを通じ、日中関係団体にも波及した。世界各地でベトナム反戦運動が展開され、「プラハの春」と呼ばれたチエコの民主化が鎮圧された。中国では「文革」の嵐の中、日本に多くの友人を持つ作家の巴金や当協会の最も親しい交流の相手であった周



日中間の科学技術交流の重要性、北京科学シンポジウム開催に向けての準備について話し合いがもたれた。(正面右から)白土吾夫事務局長、中島健蔵理事長、田村三郎東大教授

一九六八年二月二十一日 東京

揚、田漢、夏衍、陽翰笙が「四条漢子」と呼ばれ、反革命分子の「頭目」として迫害を受けた。五七幹部学校の開校、知識青年の農山村への下放もこの年に始まった。



ハルビン郊外をゆく紅衛兵長征隊 カラ長編記録映画「夜明けの国」から 同映画は、当協会と中国人民対外文化友好協会の間で結ばれた文化交流に関する共同声明に基づき、岩波映画製作所の撮影隊が現地取材し制作したもの。全国各地で上映され、八月には、ベネチア映画祭にも出品、当時の中国を紹介した貴重な映像として注目を集めた。英語版、フランス語版も制作された

一九六八年の主な交流

◎1月 長編記録映画「夜明けの国」の各地での上映始まる。この年、同映画の英語版、フランス語版も完成。  
◎2月 「中華人民共和国写真展」を各地で開催。

◎3月 「一九六八年北京科学シンポジウムのための呼びかけ」発表。同シンポジウム日本準備会が東京、大阪、京都などに連絡所設置。

◎9月 日中文化交流協会などが参加した連合代表団(黒田寿男、杉村春子、白土吾夫らの諸氏)訪中。

◎10月 中島健蔵理事長の写真展「顔顔」を東京で開催。

◎11月 東京・朝日講堂で、日中文化交流協会などの連合代表団帰国報告講演会。白石凡、杉村春子、菅沼正久の諸氏が講演。

~~~~~  
物体が曲線運動をするときこの曲線の中心に向かって物体に働く力がある。求心力という。動があれば反動があり、求心力があれば遠心力がある。求心力と遠心力とは運動の力学で常にかえておかなければならない問題である。

人間の社会運動においても、求心力と遠心力は忽せにできない。運動の中心人物に必要なのはまさにこの求心力である。運動の規模が大きいほど大きい求心力が必要とされる。したがって、中心人物の誤謬は許されないのである。(九十九)